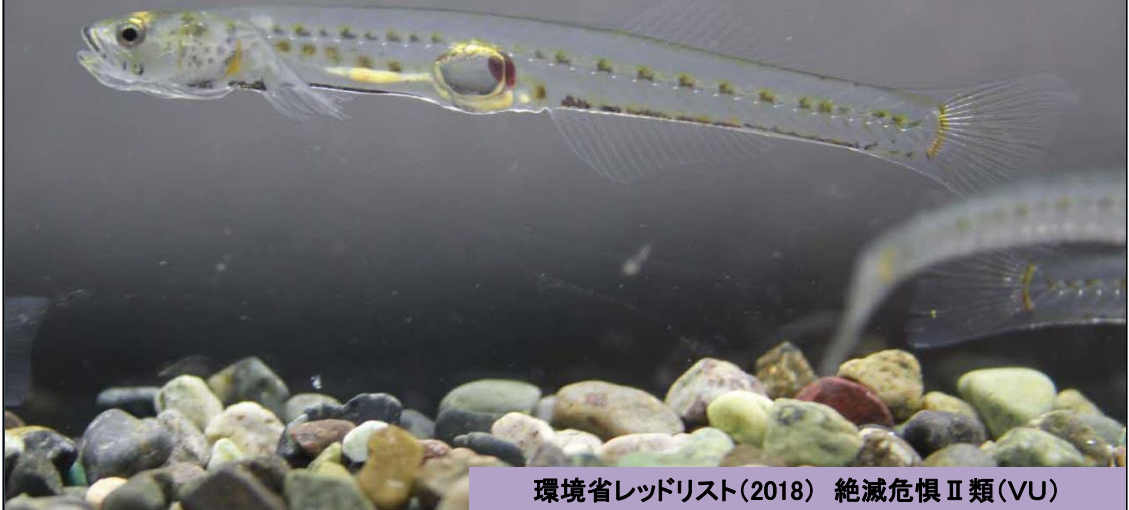


県域 絶滅危惧Ⅱ類



環境省レッドリスト(2018) 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

シラウオと混同されることが多いが、まったくの別種。本種はハゼ科の回遊魚。北潟湖産

ハゼ科 シロウオ属

【全長】5~6cm

シロウオ

俗名: イサザ

学名: *Leucopsarion petersii*

分布域

青森県以南に分布する。

生息域

主に沿岸部に生息し、春に産卵のため河川や汽水湖に遡上する。



俗名で「イサザ」と呼ばれ漁も行われる。

体形は細長く頭部が丸みを帯び、生きている時は全身が鮎色を帯びた透明で、内臓や背骨が透けて見える。背鰭は1基。オスよりメスがやや大きい。本種には日本海型と太平洋型が知られ、日本海型が少しだけ大きく背骨の骨数が多い傾向にある。食性は動物食性で主に動物プランクトンを食べる。産卵期は春(福井県では3~4月頃)。群れて河川を遡上しオスが砂底に埋まった石の下を掘り産卵室を作り、メスはその石の下面に産卵する。産卵後にメスは死ぬ。オスは卵が孵化するまで卵を保護する。寿命は約1年(年魚)。近年、生息数は減少傾向にある。

水槽での長期飼育は困難。飼育下では冷凍赤虫を食べる。

在来種

回遊魚

※ 福井県では俗名を「イサザ」と呼び、イサザ漁が春の訪れを告げる風物詩となっている。生きている時は鮎色を帯びた透明で、死ぬと白色になる。玉子とじや踊り食いなどで食べられる。